

24/2/19 河村たかし名古屋市長定例記者会見

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

河村市長：はいそれでは2月19日ですね。

定例記者会見を始めたいと思います。おはようございます。

報告に先立ちまして、名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会から先週14日水曜日に、中間報告を受け取った件について一言を申し上げます。

本市が主催した市民討論会において差別発言に適切な対応が取れなかったこと。

速やかに謝罪をしなかったこと等に関しては改めて当事者の方や心を痛められた方にお詫びを申し上げます。

このとき一応正確に言っていかなあかんもんでこれ討論会と言われるものがあったもんでああいう格好になって私がお本人によく知ってる方だから車椅子の方がですね、わしがまず謝りに行くわと、まず言ったんですけど、これは当局の方からいやいや、私達でやりますからということがありまして、それを押してまで俺は行くわというふうには言わなかったと。

というのは、これは事実でございます。何人が聞いております。

事実でございます。

それと中間報告では差別発言に対する問題意識の欠如等が指摘されており私としても大いに大いに反省をしております。

危機管理といいますか、無作為抽出をやった場合はあのとき司会をやった人間でなかったからいいましたけど、普通の民間の会社でも、無作為抽出あんまりやらないけど本当にいろんな意見が出そうなときは、まあ、まず差別発言というのはほとんどないんですけども、と言っていましたけど、けんかにならんようにお互いを傷つんようお願いしますねって普通は言うんだけどねえと、始まる前、あのときはそれも言わなかったということは言っておられました。

そんなことで、いろんな意見が出るということは予想されておるわけですねこれ。

特にエレベーターをつけるかどうかと、お城にですねとかいうことで、そういう場合はやっぱりそこら辺の事前の危機管理といいますか、それが甘かったんではないかと。

甘かったんじゃない、甘かったと反省しております。

とりわけ、先週の総務環境委員会においても市民討論会の閉会挨拶における私の発言について指摘を受けまして受けましたと。

私としては無作為抽出によりご参加いただいた市民の方に自由闊達にご意見をいただいたと、そのことについて感謝しているという趣旨でございましたが、差別発言を容認しているとの誤解を招くとまたその車椅子の方がそれで傷つけられたということだったら、これはそれでいけませんので、それは不適切な発言だったと認識しております。

ただしそのときは繰り返しますが2人おみえになりまして、差別発言というか不適切発言と言われる方1人の方は我慢せよと。

いう話だったんで、あの発言はよう聞こえておりました。

その言い合いになりましたから印象も良く、ありましたけど、市の職員が駆けつけましてそれでまずピタッと止まったんですね。

また、ちょっと待って僕自身の認識としては喧嘩になってもらったらいかんと思っただけで止まりましたんで、良かったなと思っただけ。

それから2番目の方がいわゆる言葉自体に差別発言だと言われるという言葉が出ましたときは、そういう言い合いじゃなくてザーッと言われた中で言われておりましたんで、あのときに言ったように、聞こえなかったとか、認識できなかったというのが非常に難しいんですけども、ずっと流れてった状況だったと。

いうこととございまして、私からすると、あの後記者さんが来て、差別発言があったが、いったいどういうことだそれはと。

いうお話の認識だったということですが、これ委員会で答弁しておりますけど、9人だったかな、発言されたのは9人、特に2人ぐらいの女性の方が、1人の話はよく覚えてますけど、私実は名古屋城、お城について実は関心があまりあんまりがどうか、なかったんですけど、今日いろんな専門家の話もありましたね聞いてようわかったと。

そんな大変大切なとか、重要なお城なんですねということを主旨だけで言いますね。

そういう話をされたり、話があって、今でも何十回ありましたね名古屋城の討論会とか、あれは、討論会はやっておりません、名古屋城のタウンミーティングみたいなもの。

やりましたけど、ああいう感じのこう、あるいはフラットという表現。

使いましたけど、なんか素直な市民の皆さんの自由な感覚の発言というのは、僕からすると大変珍しいことだったと。

関係者が来るのもいいんですけど、どうしても一定のいままでいわれとった論議になりますんでバリアフリー化、どうのこうの言ってやるわけですよ。

そういう面で非常に嬉しかったと。

いうことは、そうとございましてこれ皆さん、あまり関心あるかどうか知りませんが、大体、国会のときや何かでも市民集会というということを言いますがあんまりええことではないですけど、同じような人しかこないという怒られますけど、異なってきますのでその中ではさすがに無作為抽出というのは、すげえなど。

やっぱりそういうところにわざわざ出てきていただいて、自分の本当に思うところを述べていただいたらいいというのは感謝しとるって、大変素晴らしかったという認識だったということとございまして。

そういう中で、の発言ですけど、車椅子のご本人には一方、傷つけた可能性がありますので、これは申し訳なかったなと。

ということですがあとご本人に会って話しておりますけど、盛んに印象が深いのはそのすぐ対応してくれ良かったんですけどその後はいかんわと。

いうのは、きつく言われております。

これ証言証人つきです。

そこの向こうの角におります。

あと特別秘書と、其の他の3人で、コメダ珈琲で話しておりますんで、そうだねって、だからそれは今言いましたように、すぐ、それもそのとき言ったと思いますがね、すぐ謝りに僕がいるか思ったんだけど役所がやるうちがやりますから、市長そこまでせんでもいいですからということになってそうだったんだと。

いうことで、あそうかとなって、誰から何かちょっとこれいかなんと思っただけで電話かけたのご本人にこれ、これではおまかせでは、役所任せではということにかけてましたら本人もそのとき受信履歴が残って、これは河村さんの電話では言って僕も怒ったのでなんだ、出てくれせんのはいかなんってという話がありまして、そういう面では怒られたと。

というのが現実でございます。

ということでございまして、傷つけるような結果になりましたことにつきましては、不適切な発言だったというふうに思っておりますが、何も言い訳いうつもりはなくてそいやだからそのときには、無作為抽出の本当の市民の方が自由な発言をされたということについて、大変ありがたかったとそういうこと以外に本当はないんですから、これはその後、名古屋市でもそういうことをやったことあるかどうか、他の部局なんかで、聞いたらないんじゃないかと。言ってたんだね。

秘書室大主幹どうぞ。違うかな。そうですね確か

秘書室主幹：無作為抽出はないんじゃないか

河村市長：ないんじゃないかといったぐらい、極めて珍しい。

僕の長い国会も含めての政治経験から言っても無作為抽出やって市民の自由な意見を聞くというのは、それが実現されたというのは、初めてじゃないすかねこれ。

ということだ。

それほどまで貴重なことで、途中でいっぺん役所から報告がありまして人数がやっぱりそうは来ないから、30人か40人で言ってたかなという予定がさっき有権者全員のとか言うとなら160万人中の30人ですかねこれ170万人。

そのうちの30人で、だから、もっと会場せっかくあるんで、いろいろな関係者を来てもらおうか言ったんだよ、それは僕はいかんって言ったんですそれは、せっかく無作為抽出やるんだから、本当に生の市民の皆さんの意見きこみゃーという事を言った記憶があります。

特定の人たちはいなかったと思いますけど、そのはずで。

という会であったと。

いうことでございます。

それからまた中間報告には再発防止に向けて取り組むべき事項も掲げており、差別の人権侵害でありましていかなる場合でも許されるものではありません。

今一度肝に銘じて、今後の市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

私が僕には再発防止に向けて取り組むべき事項も考えられており、これは速やかに着手し、市を挙げて取り組むべきものであると認識しております。

いうことですがもう一つそのために私自身はもちろんのこと先ほどの幹部会の場でも、局長級の皆さんには、中間報告にしっかり目を通してリーダーシップを発揮し、再発防止に向けた取り組みにすぐ着手するよう指示したところでございます。

検証はこれからも引き続き行われ最終報告はされると聞いておりますので、今後の検証結果を待ちたいと思います。

それでは報告事項に移らせていただきますということですが予算事項になっておりますけど、話をコメダ珈琲でお話をその方としたときにもいままでどうしても福祉関係のいろんな話になると、ほとんど大体ものが決まってから何か話を聞こうかということだけだという話がありました。

こともあり、物事の計画段階からですね、名古屋城に限りませんけども当然のことですけど、名古屋市内の公共建築物建築にも限らず道路とかいろんなものがありますけどそういうときに計画段階から、こういう福祉の方の意見を聞くだけじゃなくて、計画の中で取り入れていくと、メンバーとして入ってもらうことですね。

いうことが非常に重要なんじゃないかと。

いうことだった、そりゃ良いことだと。

いうことで本来、予算事項にもなっておりますし、これは日本で初めての取り組みになるだろう。思います。

あんまり言うのなんですけど、役所の緑土、住都、から、2人専従でちゃんと入りましてチームそういう組織ができていますんで、日本で初めてのええ取り組みができるだろうと思っております。

それにしてもこれもしょっちゅう言っておりますけどこの障害者という名前はやめなあかんよ、本当に障害といういや、ちょっと良かったら Google で見ていただきましたよと、厚労省でもうだいぶ前から議論があるんだ。

害に障るということですから。

障害ということ。

だからアメリカで言いますと disable とか不自由だとか、それからチャレンジだとか挑戦、神がそういう苦難を与えたと、それにチャレンジするという素晴らしいあの方だという意味でそういうなっておりますんで。

どういう言葉がええかということで、言っておりますけどその検証チーム、厚労省の話の中でも、そんなこと言っとるより、福祉の内容を充実しなさいと。

というような話になれば名古屋でもだいぶ相談をしたんですけど、今んところや名前を変えると、障害という言い方をね、よくあるのは害をひらがなにするとかなりありますが、あれは変えちゃいかんのじゃないかと。

いう説もありますよね。

言葉の間ちょっとアジアパラの責任者の方という方と横で喋ったたら「僕は河村さんのように変えた方がええ」と言ってました。

福祉施設なんかでも昔は何とか言ったら、え名前を変えたことによってみんな利用が非常にしやすくなったと。

いうことですのでだけどなかなかそういかんのだわって言ったら「河村さんは言い続けるよりしょうがないに」と、いうことになっておりまして、私はできたら、このアジアパラのときにその名前を変える第一歩になるといいなということで、現実いろんなところで発言をさせていただいております。これは

中日新聞：ありがとうございます。あと本当に冒頭の冒頭で討論会で、適切な対応が取れなかったことと、当事者の方にすぐ謝罪ができなかったことを市長申し訳なかったというのを謝罪しますっていうふうにお話されてたと思うんですが、今回のこの熱いトーク発言については謝罪はされるんでしょうか。

河村市長：今ここでしとるんですけど

中日新聞：今日は謝罪も兼ねている。先日の委員会の際は、不適切だったというふうにおっしゃってましたけど、謝罪とか、撤回とか修正には言及されてなかったと思う。

河村市長：撤回は間違ったことをいわゆる自分のね、認識の中でですよ。

嘘言ったらいいけませんので、そういうあの発言ではないもんで僕は。実際。だからもっとものすごい注意して、全発言を聞いとるべきだったと。

いうことを言われればそうかもわからんし、かといって環境的な問題かわからんけど、そんなのどういう受け止められとるかということは、結構でかいんで、そういう面では不適切だったと申し訳なかったということですよそれは。

それは本当は僕あんときすぐそうやって言ったはずですけどね。

あのときに何日か経って、

中日新聞：何日かたってから市長囲み等にも参加されてらっしゃったと思うんですけど

河村市長：そこで

中日新聞：熱いトーク発言についての言及はこれまでなかったというふうに認識しておりますのでお伺いさせていただきました。

河村市長：熱いトーク発言については実際僕の認識は何遍も言いますが、無作為抽出で本当に市民の皆さんが自分の意見をああいうとこで堂々と言うというのは、初めてのことで、ものすごいこれ

中日新聞：さきほどもお伺いした

河村市長：ありがたかったということで発言したのは間違いありませんよこれ

中日新聞：それはこちら承知しております

河村市長：結果として車いすの方にとりか、よそよそしい言い方ですけど、名前いうわけにはいかんもんで、心を傷つけたかなあという、不適切だったと、すみませんと、

中日新聞：あとその、今のお話聞いていると、そこに当日出席されていて、熱いトーク発言を聞いて心を痛めた車椅子の参加者の方に、のことだと思っておりますが、中間報告書で、熱いトーク発言が問題視されてるのって、その当事者の方を傷つけたっていう結果もあるとは思いますが。

市長が「熱いトーク」と発言したことで、差別を要は、差別的な発言があっても、それをある種評価したような印象を与えたという部分を問題視したと思うんですけれども。そのあたりの指摘についても受け止めて不適切だったということでよいですか。

河村市長：それで受け止められた。

真実もありますからね、私は少なくとも本人とお話しましたが、その事はあんまり言っておられなかったですけどね。

中日新聞：そのご本人の話をしているのではなく、差別的な発言があって市長が聞こえていたか聞こえていなかったかは別として、その差別的発言があった討論会の閉会の挨拶で、「熱いトークがあってよかった」といったことで、差別発言自体を容認するような誤解を市民に与えてしまったのではという指摘があったこと。

河村市長：そんなのあったんですかそんなの

中日新聞：報告書に書いております。

とらえかねられない

河村市長：かねないでしょ。だけどそういう聞いたことはないですけどね、うちは。

中日新聞：きいたことはない 河村市長：そういつて実際に参加した方、または報道等によって知られた方から、おみゃーさん 中日新聞：直接本人が聞いていなくても、第三者でつくる中間報告の検証の報告書の中では「捉えかねなかったのでは」というような

河村市長：それも含めてすいませんと。言っておりますがな これ

中日新聞：わかりましたありがとうございます。

河村市長：それだけやっば第三者の無作為抽出の発言というのは、名古屋市政始まって以来ですからこれ今言いましたよ。

無作為抽出なんてないんですよ。